

## 「ジオパーク秩父のアナ」を終えて

井上 素子・北川 博道

### 「穴」を通してジオパークをのぞく

平成23年9月に「ジオパーク秩父」が誕生してまもなく5年になります。当館では、ジオパーク秩父を周知すべく、平成23年度に企画展「ジオパーク秩父へのいざない」、平成25年度に企画展「彩発見！埼玉の太古の海の恵み展」を実施してきました。

今回は、ジオパーク秩父の「穴」にフォーカスしました。鍾乳洞や断層洞、ポットホールなど、自然の力でできた穴、トンネルや坑道、井戸など、人が何かを求めて掘った穴、生物が開けた穴・・・そんな多種多様な穴が、どうしてそこにあるのか、どうやってできたのかを紹介しました。

ジオパークの理念のひとつに、大地(ジオ)と、動植物や生態系(エコ)と、人(ヒト)の生活・文化・産業・歴史とのつながりを伝えることがあります。しかし、このようなエピソードは満ち溢れており、漫然としてしまいます。今回「穴」にぎゅっと焦点を絞ったことで、より鮮明にジオ・エコ・ヒトのつながりを描き出すことができました。また、穴+屈葬人骨、穴+オオカミ+人、穴+信仰など、今まで気が付かなかったエピソードも発見することができました。



### 夏休み、親子で楽しめる工夫を

洞穴に入った時の狭さや暗さ、妙な安心感などを伝えたいと、スタッフの遊び心をフル活動して、段ボール製のトンネルに、洞穴特有の生物や、洞穴内に眠る化石を再現しました。また、展示ケースをジオラマ風にして生物と穴との関係をわかりやすく紹介しました。「この穴だれの穴」などクイズ形式の展示も人気でした。

おかげさまで開催期間中28,911人の来館者を迎えることができました。少しでも、ジオパークの面白さを感じる機会となっていれば幸いです。

(いのうえ もとこ・主任学芸員

きたがわ ひろみち・学芸員)



#### ①②展示風景

#### ③トンネル内部のようす

コウモリやカマドウマの標本を展示した他、ヒカリゴケも生体展示した。

#### ④生物の穴コーナー

#### ⑤大地の穴コーナー

さまざまな穴と成因を写真で紹介。

#### ⑥オオカミあーら(長瀬町)

明治30年代にオオカミが子育てをした穴。穴から連れ出した子を育てたところ、母親

は兎や鳥の死骸を置いていったという。

#### ⑦妙音寺洞穴屈葬人骨(皆野町 所蔵：埼玉県教育委員会)

中世寺院発掘の際に突如現れた洞穴には、本州最古級の人骨が埋葬されていた。